

であった。

割合は、20歳代が5.7%（前年度から0.3ポイント減）、30歳代が34.0%（同0.6ポイント減）、40歳代が34.6%（同1.1ポイント増）、50歳代が21.0%（同0.8ポイント増）、60歳以上が4.8%（同0.9ポイント減）だった。

年代別の割合では、全体では、40歳代が34.6%と最も高く、次いで30歳代の34.0%、50歳代の21.0%と続く。30歳代と40歳代で約7割を占めた。

以下、年代別に見ていく。

## ア. 20歳代

全体では常勤非任期付、常勤任期付、非常勤が約3割ずつである。

人数では、多い法人から、理研の202人、次いで物材機構の155人、JAXAの121人であった。

在籍研究者に占める割合は、3つの雇用形態とも一番多いのは2割未満であった。

ただし、在籍研究者全てが常勤非任期付の法人も2法人あった。また、在籍研究者全てが非常勤の法人も5法人あった。

図1-42 20歳代在籍研究者数

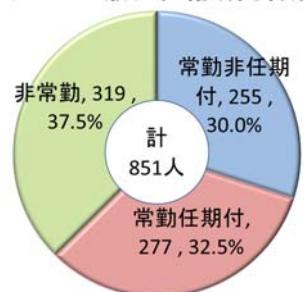
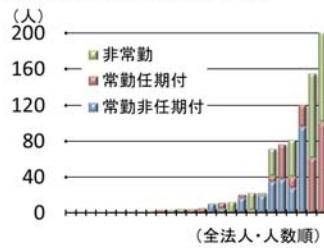


図1-43 法人別20歳代在籍研究者数(雇用形態別積上げ)



## ウ. 40歳代

常勤任期無しが8割を占めた。

個別法人で見ても、常勤任期無しが8割以上を占める法人が19法人あった。

図1-48 40歳代在籍研究者数

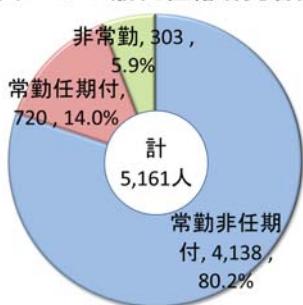
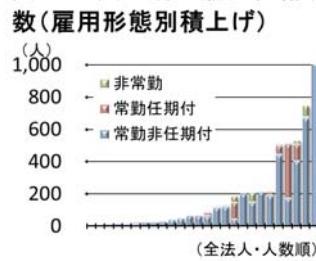


図1-49 法人別40歳代在籍研究者数(雇用形態別積上げ)



#### (4)若手研究者、女性研究者、外国人研究者の概要

若手研究者（37歳以下）が4,823人（対前年度比▲15.8%）、女性研究者が1,708人（同+3.8%）、外国人研究者が1,096人（同+2.5%）であった。

割合では、若手研究者が32.3%（前年度から0.9ポイント減）、女性研究者が

11.4%（同0.7ポイント増）、外国人研究者が7.3%（同0.3ポイント増）だった。

新規採用研究者の雇用形態分類では、いずれの属性においても常勤任期付の割合が高い。この他、外国人研究者を常勤非任期付で採用する割合が低い。

図1-57 若手研究者、女性研究者、外国人研究者の割合（全体）

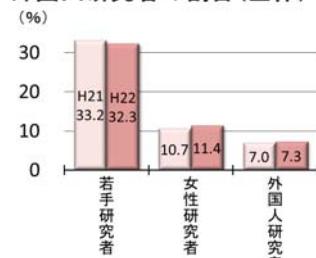


図1-58 新規採用研究者の分類別割合

